

①留学先(参加プログラム/受け入れ機関についての概略)

参加プログラム：イオン1%クラブ「アジア・エコリーダーズ」

受け入れ機関：Bantar Gebang(ゴミ処理場の見学), Surabaya City Government(スラバヤ市の取り組みなどに関する講義), Surabaya City(ゴミ処理場、堆肥化工場、エコ・コミュニティ見学)

②留学前の準備

11月1日(金)に日本メンバーのための事前研修会が上智大学であった。その際に日本のゴミ問題についてイオンの方が講義をして下さった。他に、夏に行われたイオンの高校生用のプログラムで3位までに入ったプレゼンテーションを見て、その中で提案されているジャカルタのゴミ問題の解決策をどう社会で実践していくかを考えてくるように言われ、事前に見た。

また、イオンのプログラムに掲載されていた参考文献にも目を通してアジアのゴミ問題の実情についても少し知識を得た。

更に **farewell party** で日本メンバーは盆踊りと **J-POP** のダンスを披露することになったため、その練習もした。

③留学中の活動及び感想

今まで参加したことのある海外プログラムより規模が大きくて、日本メンバーも東工大以外から多くきていたため、新鮮だった。ごみ問題についての実情を見るためのゴミ処理場の見学は実際に訪れたからこそ、その深刻さが分かるものであったし、地域活動として行われているエコ・コミュニティの活動なども実際に見られて、社会工学科でまちづくりを学んでいる私としては、政府だけでなく市民も問題と向き合おうとしている様子を垣間見られてとても興味深かった。

また **farewell party** では各国の学生がパフォーマンスをしたり、最終日は皆で観光をしたりと、外国の文化や歴史、遺産に触れることができたのも貴重な経験となった。

そして今回一番感動したのは、今回インドネシアに行った時に **JAYSES2012** と **JAYSES2011**(東工大主催の短期留学プログラムで **AYSEAS** の前身)と一緒に参加していたインドネシアの友達がホテルまで会いに来てくれたことだった。このような短期プログラムは「友達ができることも大切」とよく聞くが、去年や一昨年の時点ではまさか数年後に再会できるとは思っていなかったため、しばらく経っても会えるような友達ができていることを改めて嬉しく感じ、今回出会えた友達とも国籍を問わずそのような関係を築いていきたいらと思った。

④留学費用について

入国ビザとお土産代は自己負担だったが、出国時も渡航費も宿泊費もイオンが負担して下さった。

⑤留学先での住居について

毎日ホテルに宿泊。朝食は毎日付いていて、夕食もホテルで取ることもあった。

⑥留学先での語学状況

日本、中国、インドネシア、タイ、マレーシア、ベトナムの6カ国の学生が集まっていたので英語を主に使用して過ごした。講義の一部はインドネシア語を話している現地の人に英語の通訳の方がついていたので、インドネシア人は母国語で聴けている時もあった。

⑦単位認定について

単位はなし

⑧留学経験を今後、どのように活かしたいか

発展途上国の一つであるインドネシアのごみ問題について考え、解決策を考え一つのプレゼンにできたのは、学べたことも多かったし、海外の学生とのディスカッションなどを通じて自分の表現能力の向上にも繋がったと思う。私は来年度修士の交換留学でスウェーデンに行きたいと思っているため、今後も英語は学んだり伝えたりするためのツールとしてそのスキル向上に励んでいきたいし、長期留学でも多くを学んで来れたらと思う。

⑨留学先で困ったこと(もしあれば)

特になし

⑩留学を希望する後輩へアドバイス

長期で留学に行く前に短期でテーマも決まっているこのようなプログラムは良いステップになると思います。また、日本の学生も東工大だけではないので、普段関われないような分野の人もたくさんいて、世界が広がりました。10日間という短い間でプレゼンという1つのものをチームの人と作り上げるというのは大変ですが達成感もあり、自信にもなると思います。また、学ぶだけでなく、交流を通して海外に友達ができるのも大きなことだと思います。彼らが日本に来てくれたり、こちらが彼らの国に行く時に連絡を取り合ったり、定期的に連絡を取れる仲間が海外にいるというのは刺激にもなるし一生の財産だと思います。このプログラムは学部生のみ対象なので興味があったら思いきって参加してみるときっと多くの貴重な経験ができると思います。